

教職 e ポートフォリオの活用による 教育実習生の自己評価および相互コメントの効果[†]

谷塚光典^{*1・*2}・東原義訓^{*1}・喜多敏博^{*2}・戸田真志^{*2}・鈴木克明^{*2}
信州大学学術研究院教育学系^{*1}・熊本大学大学院教授システム学専攻^{*2}

自己評価機能と学生間の相互コメント機能を有する教職 e ポートフォリオ・システムを開発した。そして、開発した教職 e ポートフォリオ活用の効果を明らかにするために、教育実習を終えた大学生を対象にアンケート調査を行った。その結果、教育実習生は、教職 e ポートフォリオを活用して自己評価することを通して、教育実習を客観的に振り返ることができるを感じたり、自己課題を明確にしたりしていた。また、教育実習生間の相互コメントを通して、教育実習を改めて振り返り、教育実習生間で相互コメントすることの意義を実感していることがわかった。そして、教職 e ポートフォリオの効果について尋ねたところ、自分の受けた教育の振り返り、目指すべき教師像の明確化、自らの資質・力量の現状理解等には効果がある一方で、これからの教職課程の見通しを持つことには寄与していないことが明らかになった。

キーワード：e ポートフォリオ，教育実習，教師教育，教員養成，リフレクション

1. はじめに

1.1. 教員養成系大学・学部における e ポートフォリオ導入の動向

e ポートフォリオは、高等教育、特に教員養成の分野でも導入が進みつつある。永田(2002)がティーチング・ポートフォリオ実践研究の動向と課題をまとめているが、それ以降、教職志望学生および現職教員が作成するティーチング・ポートフォリオは、e ポートフォリオとして作成されることが増えてきている。例えば、教職大学院用の教職 e ポートフォリオ（小柳 2008；永田ほか 2009；永田ほか 2012）や学部レベルの教育実習用ポートフォリオ（加藤ほか 2007；加藤ほか 2008）、そしてキャリア支援のための e ポートフォ

リオ（小川ほか2007；柳・小川2011）が開発・運用されてきており、その活用の効果も検証されてきている。そして、2010年度入学生から必修化される新設科目「教職実践演習」で求めている「履修カルテ」に対応する教職 e ポートフォリオも各大学で開発され、運用が始まっている（例えば、姫野 2010；姫野 2012；伏木 2010；谷塚 2013）。

1.2. e ポートフォリオ活用による相互評価

森本(2009)は、e ポートフォリオの定義を、「電子的な形式で扱われたすべてのポートフォリオ」（広義の定義）あるいは「ポートフォリオを作成するためのソフトウェアまたはポートフォリオをマネジメントするためのシステム」（狭義の定義）と定めた上で、e ポートフォリオの本質的な要件として次の4点を挙げている（森本 2012）。

- 学習の証拠（エビデンス）としての役割を担う。
- 学習者の客観的能力を測定するのではなく、学習者のパフォーマンスを評価する。
- 評価活動（自己評価、相互評価など）を通して、次のことが促進される。
 - ・リフレクションの誘発
 - ・自律的な学習の生起
 - ・能力開発・成長

2015年2月5日受理

[†] Mitsunori YATSUKA^{*1・*2}, Yoshinori HIGASHIBARA^{*1}, Toshihiro KITA^{*2}, Masashi TODA^{*2} and Katsuki SUZUKI^{*2}: The Effects of Student Teachers' Self-Assessment and Peer Review Using Professional ePortfolio

^{*1} Institute of Education, Shinshu University, 6 Nishi-Nagano, Nagano City, Nagano, 380-8544 Japan

^{*2} Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University, 2-40-1 Kurokami, Chuo-ku, Kumamoto City, Kumamoto, 860-8555 Japan

□相互作用を促進する橋渡しとなり、コミュニティ（学びの共同体）の構築が期待できる。

また、eポートフォリオによる相互コメントに関して、植野・宇都(2011)は、他者が作成したeポートフォリオを閲覧したり他者からのコメントを読んだりすることで自己のリフレクションが誘発されるとしている。

教職ポートフォリオの効果について、永田(2006)は、ティーチング・ポートフォリオを作成することにより、教師のリフレクション（反省・省察）を促し、授業力を磨くことにつながるとしている。また、鞍馬(2010)は、「自己省察や外に開いた状態での学び合いを基礎とするポートフォリオの蓄積とその活用は、『開かれた専門職』および『開かれた大学における責任ある教員養成』の実現へと導くものだ」と指摘した上で、「ポートフォリオがプロセスを重視し、他者評価と自己評価の相互関連性に基づいて多元的評価を行うことを重視している点は、教職という複雑かつ高度な専門性が要求される職業の養成プロセスの評価においては、特に重要な観点である」としている。

植野・宇都(2011)や鞍馬(2010)が指摘している他者評価の重要性であるが、各大学で開発・運用されている教職eポートフォリオにおいても、教職志望学生としての自己の学習成果や成長過程を蓄積することに加えて、他者と相互作用する機能が実装されることによって、学生の成長を一層促進できると考えられる。

1.3. 研究の目的

本研究では、学生の自己評価機能、学生間の相互コメント機能および指導者コメント機能を実装した教職eポートフォリオの開発を行い、その開発した教職eポートフォリオを活用して自己評価および相互コメン

トを行うことの効果を明らかにすることを目的とする。

1.4. 研究の方法

本研究では、まず、学生の自己評価（総合評価と観点別評価）および相互コメント機能を実装した教職eポートフォリオを開発する。

そして、開発した教職eポートフォリオの効果を明らかにするために、国立大学法人A大学の教員養成系学部（以下、「A大学」）における「教育実習Ⅰ」および「教育実習事前・事後指導」を履修し「教育実習Ⅰ」を終了した学生（3年次生）を対象にアンケートを実施する。3年次の学年末であれば、4週間余の教育実習を経験しているので、教育実習における臨床経験を含めた自己評価と相互コメントを行うことが可能である。

2. 開発した教職eポートフォリオの機能

2.1. 教職eポートフォリオの作成時期

今回開発した教職eポートフォリオは、教職志望学生が、入学時から卒業前まで4年間継続して利用することを想定して設計している。

A大学では、表1のような5つの時期に作成する。1年次必修科目「教育臨床入門」（通年2単位、教職第2欄「教職の意義等に関する科目」）において、前期終了時の課題として①のように、自己評価（観点別）（入学時）と目標（1年）を記入する。なお、目標には、その時点での目指す教師像と、そのような教師像を抱くようになった理由やモデルとなる教師等を記述する。そして、②のように、「教育臨床入門」受講終了時には、観点別自己評価と、目標（1年）と照らし合わせながらの総合評価を記述する。それらの同じクラス（課程・コース）内で閲覧し合いながら相互コメントを記入す

表1 教職eポートフォリオの作成時期と内容

	具体的な時期	作成内容
①「教育臨床入門」受講初期	1年次 8月	自己評価（観点別）（入学時） 目標（1年）
②「教育臨床入門」受講終了前	1年次 1月	自己評価（総合、観点別）（1年末） 相互評価（1年末） 目標（2年）
③「教育実習事前・事後指導」受講開始時	3年次 4月	自己評価（総合、観点別）（2年末） 目標（3年）
④「教育実習Ⅰ」終了後	3年次12月	自己評価（総合、観点別）（3年末） 相互評価（3年末） 目標（4年）
⑤「教職実践演習」受講終了前	4年次12月	自己評価（総合、観点別）（4年末） 相互評価（4年） ★指導者（学部指導教員）評価

表2 教職eポートフォリオの自己評価の12観点およびディプロマ・ポリシーとの対応

ディプロマ・ポリシー	教職eポートフォリオの自己評価の観点
DP1: 教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観	①「教育にかかわる幅広い知識や教養」 ②「教育に携わる専門家としての使命感・倫理観」
DP2: 教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能	③「各教科の背景となる学問に関する知識」 ④「各教科で扱う内容（学習指導要領）の知識と技能」 ⑤「教科指導に関する知識」 ⑥「教科に関する指導技術」 ⑦「授業実践に関する専門的知識・技能」 ⑧「幼児・児童・生徒理解に関する専門的知識」 ⑨「学級経営に関する専門的知識・技能」
DP3: 他者と協働して教育活動をつくる社会的スキル	⑩「コミュニケーション能力や人間関係を調整する社会的スキル」 ⑪「様々な立場の人や多様な専門家をコーディネートする社会的スキル」
DP4: 理論と実践を往還する省察と改善の態度	⑫「理論と実践を往還する省察と改善の態度」

ることと合わせて、目標（2年）も記述しておく。

3年次になって、③のように、教育実習Ⅰ（4単位）のために受講する「教育実習事前・事後指導」の課題として、2年末の総合評価と観点別自己評価を行い、目標（3年）を記述する。そして、④のように、教育実習Ⅰ終了後の事後指導の課題として、3年末の総合評価と観点別自己評価を行い、相互コメントを記入することと合わせて、目標（4年）も記述しておく。

そして、4年次では、⑤のように、「教職実践演習」受講終了前に、4年末の総合評価と観点別自己評価を行い、相互コメントを記入する。

2.2. 観点別自己評価および総合評価

自己評価にあたっては、A大学では、表2に示す12観点をを用いている。これらの12観点は、「A大学教育学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」および中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（中央教育審議会 2006）の「教員として求められる4つの事項」を包含するよう、A大学に設置された教職実践演習ワーキンググループにより検討・設定されたものである。

図1は、「目標と総合評価」の入力画面である。各学年の「目標」には、「自分の目指す教師像」とその理由を記入することで、自己の意識の変化を認識することもできる。さらに、図2に示す画面で総合評価を、図3に示す画面で12観点からの観点別自己評価を記入する。

2.3. 学生間の相互コメント

図4は、学生間の相互コメントの入力画面である。学生は、「記録の表示」のリンクから、自分の目指す教師像とその理由が書かれている「目標と総合評価」や

表2の12観点からの「観点別自己評価」などの資料を参照しながら、同じ課程・コースや教育実習の仲間に対して相互コメントを記入する。その際には、項目立てをして「1. ○○さんから学んだ点」「2. ○○さんへのアドバイス」という2つの観点から相互コメントを記入することになっている。

2.4. 指導者（学部教員等）からのコメント

図5は、学部教員や教育実習校指導教員等による指導者評価の入力画面である。指導者は、画面下方のリンクから、「目標と総合評価」や「観点別自己評価」、さらには他の学生からの相互コメント等の資料を参照しつつ、卒業研究の指導学生や担当課程・コースの所属学生等に対して指導者評価としてのコメントを記入する。記入欄は、「優れた点」と「課題」に分かれている。

図6は、相互コメントと指導者評価の一括表示画面である。「相互コメント」欄は、図4により記入された同じ課程・コース所属学生からの相互コメントが2人分表示されている。「指導者コメント」欄は、図5により記入された学部教員（卒業研究の指導教員等）からの「優れた点」と「課題」のコメントが、学生間の相互評価コメントの下に表示されている。図6は3年次学年末のみの場合であるが、1年次から4年次までの相互評価が一覧表示されるので、学生および指導者はこのように相互評価を閲覧できるようになっている。

2.5. 開発した教職eポートフォリオが実装する機能により期待される効果

本研究で開発した教職eポートフォリオを活用することにより、次のような効果が期待される。表1「教

職 e ポートフォリオの作成時期と内容」と対応させながら検討する。

毎学年の始め（またはその直前の年度末）には、図 1 に示す画面で「自分が目指す教師像」とその理由を記入する。自分の目標を記述することによって、目標に近づくためにはその学年で何を学ぶ必要があるのかの方向性を自覚することが期待できる。

そして、各学年の終わりの時期には、図 2 および図 3 に示す画面で、自己評価（総合評価と観点別評価）を行う。総合評価によって、各学年の始めに設定した「目指す教師像」にどれくらい近づいたかを確認する

ことと合わせて、観点別評価では、表 2 に示す 12 観点について自分が達成できている観点とそうではない観点を自覚することが期待できる。

さらに、各学年末の学生間の相互コメントを行うことによって、植野・宇都(2011)が指摘している「自己のリフレクションの誘発」が期待される。

このように、目標設定、自己評価、相互コメントというサイクルを繰り返すことによって、表 2 のディプロマ・ポリシー DP4 および自己評価観点⑫「理論と実践を往還する省察と改善の態度」が育成されることが期待される。



図 1 自分の目標の入力画面



図 2 自己評価（総合評価）の入力画面と表示画面

教職ポートフォリオ(履修カルテ)

学生: 11E9890D 信州 太郎 ログアウト

トップ -> 入力・編集 -> 観点別自己評価 -> 提出確認

観点別自己評価の編集

3年末の観点別自己評価 入力期間: 2013/04/01 ~ 2013/12/31

◆観点◆
幅広い知識や教養 入力状況確認

入力

自己評価

自己評定
 1 2 3 4 5
全く達成できない 一部達成 半分程度達成 1割ほど達成 十分に達成

授業科目「特に役立った科目」は最大10個まで選択できます。
この観点に特に役立った

科目名	授業者名	合格
科目を追加		

最終更新日:

観点の内容	入学時	1年末
幅広い知識や教養 教育にかかわる幅広い知識や教養	最終更新日	最終更新日
便に教育に携わる専門家としての使命感・倫理観	最終更新日	最終更新日

図3 自己評価（観点別評価）の入力画面と表示画面

教職ポートフォリオ(履修カルテ)

学生: 11E9890D 信州 太郎 ログアウト

トップ -> 相互評価 -> 相互評価入力 -> 入力

評価の入力

相互評価の入力 入力期間: 2013/04/01 ~ 2013/12/31

クラス: 10E臨床学校: 総生
 期間: 3年末

◆相互評価の対象者◆
 学籍番号 氏名 最終更新日

新しい対象者: 11E9999D:南信 冬子 入力

学籍番号: 11E9890D
 氏名: 南信 冬子
 記録の表示: 目標と総合評価 観点別自己評価 レーダーチャート 折線グラフ 履修状況 エビデンス 他者のコメント 相互評価

提出

図4 学生間の相互コメントの入力画面



図5 学部教員による指導者コメントの入力画面

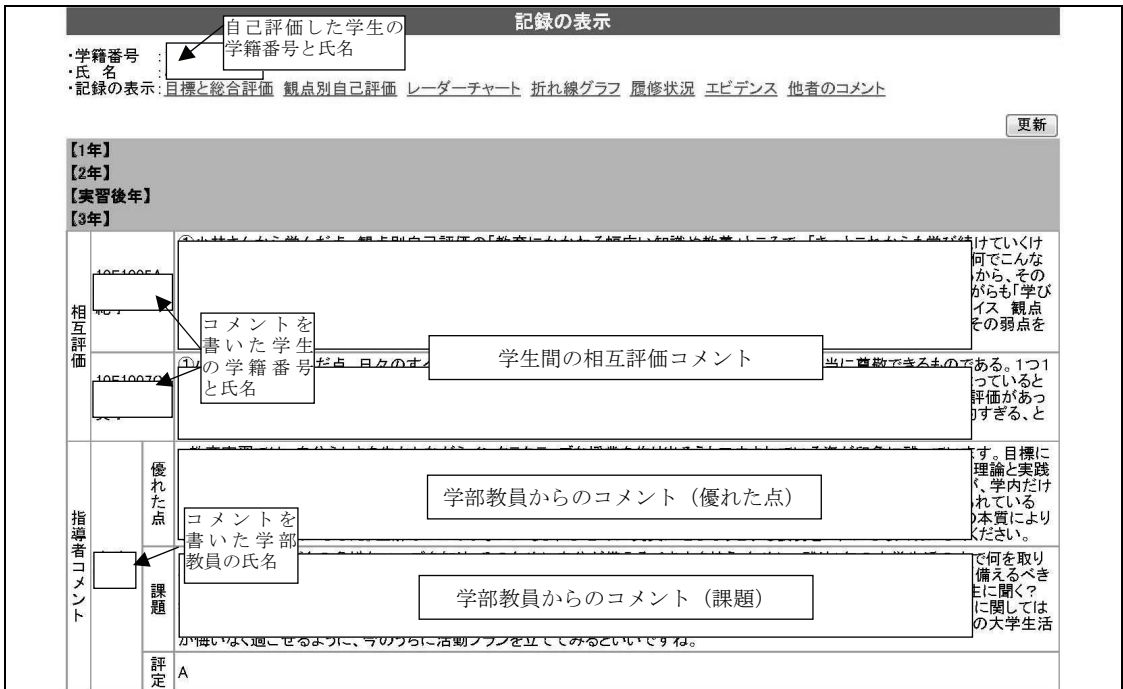


図6 相互コメントと指導者コメントの表示画面

本研究において開発した教職eポートフォリオには、学生の自己評価機能、学生間の相互コメント機能および指導者コメント機能を実装している。これは、森本(2009)および植野(2010)がポートフォリオの評価活動として挙げている「セルフ・アセスメント(自己評価)」「ピア・アセスメント(相互評価)」「エキスパート・アセスメント(専門家評価)」を実現する機能である。特に、紙媒体のポートフォリオではなくeポートフォリオとすることによって、植野(2010)が指摘している「ネットワークを介することによって、ピア・アセスメントや他者評価の回数が増し密な相互作用が期待できる」という点を実現することが期待できる。

3. 教職eポートフォリオ活用の効果

3.1. 調査の対象と時期

教職eポートフォリオの効果を明らかにするために、前述のように開発した教職eポートフォリオを利用してきた学生を対象に、アンケート調査を実施した。

対象としたのは、2013年度に「教育実習I」および「教育実習事前・事後指導」を受講した教員養成課程(学校教育教員養成課程および特別支援学校教員養成課程)の3年次生226名である。他に、「教育実習事前・事後指導」を受講した学生として「生涯スポーツ課程」および「教育カウンセリング課程」の学生もいるが、いわゆるゼロ免課程であるので、集計からは除外した。アンケートは219名から回答を得たが、この219名全員が教職eポートフォリオを作成(目標、総合評価、観点別自己評価、相互コメントの全てを記入)していたので、この219名を分析対象とした。なお、アンケート未提出者7名のうち6名が教職eポートフォリオを完成(目標、総合評価、観点別自己評価、相互コメントの全てを記入)していたが、1名は相互コメントを未記入であった。

実施時期は、「教育実習I」終了後の2014年1～2月であり、「教育実習事前・事後指導」最終回のワークシートとして実施した。ワークシートを資料に示す。

3.2. 教職eポートフォリオによる自己評価を通して学んだこと

教職eポートフォリオの作成を通して学生が何を学んだかを明らかにするために、「教職eポートフォリオ(履修カルテ)で教育実習を自己評価して、何を学びましたか」という質問に自由記述で回答してもらった。

分析には、テキストマイニングソフトとして、

「TRUSTIA」(株)ジャストシステム)を用いた。自由記述をCSV形式でデータ化し、データベースを作成した。TRUSTIAを用いた分析では、主題分類では、内容が似ている文章を抽出してグルーピングを行うことによって、関心が高い話題を抽出できる。主題となる語句は各グループの中から最も特徴的な言葉を自動的に拾い出し、主題の関係性を樹形図で表示することで、それぞれの主題がどのような関係でグループ化されているかを把握することができる(ジャストシステム法人ビジネス部 2007)。本研究では、主題分類によって、教育実習生が教職eポートフォリオを作成することを通して何を学んだと実感しているのかを明らかにする。なお、主題分類をするにあたって、同義語を設定して、別の語句として扱われないようにした。今回の分析では、「教育実習」(「実習」「臨床実習」を同義語設定)と「教師」(「教員」「先生」を同義語設定)を設定した。

図7は、教職eポートフォリオによる自己評価を通して学んだことに関する記述の主題分類である。219名の記述の平均は51語・77文字で、単語のうち名詞句が23%であった。名詞句のトップ3は、「自分(244)」「実習(95)」「教育実習(82)」であった。学生の記述を引用しながら各クラスターについて分析を進める。

クラスター①では、教職eポートフォリオで自己評価することに関する記述が読み取れる。具体的には、<自分のしたいことを客観的に振り返ることができ、何を獲得できたのか、今後の課題が何なのかを考えた、知ったりすることができた。><何を学んできたのか客観的に見つめ直すことの大切さを学んだ。>(以下、<>内は学生の記述からの引用)のように、「何」を学んだのかを「客観的に」振り返ることができたとしている。教育実習Iでは、自己課題に沿った教育実習レポートを実習校に提出するが、それは授業の設計と実施に関する内容が多い。一方で、教職eポートフォリオはディプロマ・ポリシーに基づいた12観点から自己評価するので、通常は自覚しにくい観点についても省察することになる。その特性を学生自身も感じていることがわかる。

クラスター②では、指導技術や授業に関する記述、そして、クラスター③では、教師像や目標に関する記述が読み取れる。<もう一度振り返ってみて実習で学んだ事を再確認するとともに新たに目指すべき課題が明確になりました。><改めて実習での自分の姿を振り返ることによって目標としていた教師像を意識しな

がら活動に取り組めていたかどうかを見つめることができた。>のように、教職eポートフォリオの作成を通して、教育実習での自己の姿を思い返すことによって、自己課題を明確にしたり、目指す教師像を再確認したりしていることがわかった。

クラスター④では、自分自身を見つめ直す記述が読み取れる。<自分自身を見つめ直すことで実習で学んだ事を思い出し、これから何をしたらいいか考えた。><自分の経験をそのままにしておくのではなくもう一度振り返ることで自分の学びや足りないものを再認識することができた。今後の指針を得ることができたと思う。>のように、自己課題を明確にできたことを実感している記述がある。しかしながら、後述の3.4および表3では「⑤これからの教職課程の見直し」については肯定的な回答が他項目よりも低めだったことを考えると、自分自身を見つめ直す意義を感じている学生とそうでない学生がいることがわかる。「教育臨床入門」や「教育実習事前・事後指導」において、教職eポートフォリオを作成することの効果についても、学生に伝えていく必要があろう。また、<正直、毎回書くのが大変で何の意味があるのかわからなかったけど三年の後期に入り、過去の自分の学びや今との変化がすぐにわかり自分の成長を学ぶことができた。>という記述もあって、毎学年末に12観点の観点別自己評価に加えて、自己の目指す教師像と対照しながらの総合評価を繰り返すことの煩わしさを指摘する記述もあるが、その繰り返しによって自分の成長をやっと実感していることが確認できた。教職eポートフォリオを導入した立場としてとても嬉しい記述でもある。

そして、最後のクラスター⑤では、自己評価することの意義に関する記述がある。上記のクラスター③や④と共通するところがあるが、具体的には、<自らの教育実習での様子や経験を落ち着いて整理することで改めて自分が教師になるために不足している事柄や維持していくべき事柄などの再確認ができる。今回も自己評価することで多くのことを気づかされた。これまでのシステムを用いなくてもこれからも自己評価、リフレクションといったことを通し、自己の向上に努めたい。>のように、自己評価することの意義を述べた上で、教職eポートフォリオに依らなくても自己評価できる姿を描いている学生もいた。

3.3. 教職eポートフォリオによる相互コメントを通して学んだこと

図8は、教職eポートフォリオによる相互コメントを通して学んだことに関する記述の主題分類である。219名の記述の平均は47語・69文字で、単語のうち名詞句が25%であった。名詞句のトップ3は、「自分(219)」「人(152)」「他(91)」であり、以下「考え」「実習」「視点」「学び」「何」「教育実習」「仲間」までがトップ10であった。学生の記述を引用しながら各クラスターについて分析を進めることとする。3.2と同様に、以下、<>内は学生の記述からの引用である。

クラスター①では、「友だち」「教師」「自己」のような分類名となっており、主に人物に関する記述である。<仲間とはいえその考えを共有する機会はそれほど多くなかった。>、<それほど多くなかった。>、<どんなことを考えているのかがわかりました。><自分とは違う視点で考えている人もたくさんいて、新しい発見

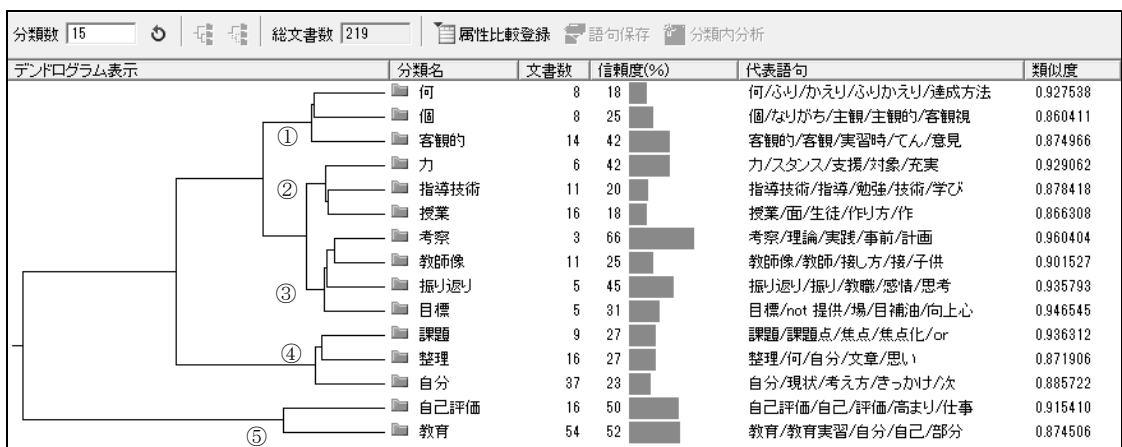


図7 教職eポートフォリオによる自己評価を通して学んだことの主題分類

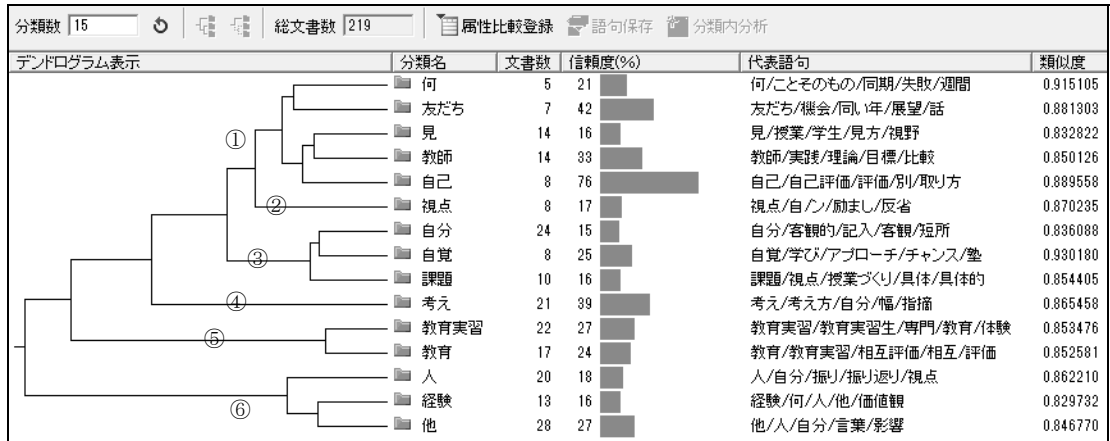


図8 教職eポートフォリオによる相互コメントを通して学んだことの主題分類

がたくさんあった。自己評価だけでは気づけなかったことにも気づくことができました。>のような他者による記入内容に関する記述があった。

クラスター②は、「視点」に関する記述である。<他人の視点から反省を見つめ直すことによって励ましになったり、あるいはアドバイスをもらうことができた。><他の人はどのような思いで実習を受けていたのか違う視点での評価を見ることができてその視点で振り返ると、どういう評価になるかと考えることができた。>のように、他者からのコメントによって、自己の振り返りをさらに振り返る契機となっている。

クラスター③では、「課題」を「自覚」している。<自分では気づくことのできなかつた学びを発見できることを知った。また、自分が足りてない部分もわかった。><仲間が1人1人どういった課題を見出しそしてその解決のための努力をしているのかを具体的に見ることができるので自分と同じような課題への、また、違った視点や対策などを取り入れることができた。>のように、観点別自己評価によって次の自己課題を見いだしたつもりになっていても、他者のコメントによってさらに課題を見つけたり、課題解決のためのアプローチの手がかりを得たりしている。

クラスター④は、「考え」という分類名になっている。<他の人の考えを見ることで自分とは違った考えを知ることができ、自分の考えを深めることができた。><人それぞれ目指す教師像や教育に対する考え方に違いがあるのでとても興味深かった。様々な考え方に触れて自分の考え方を見つめ直すきっかけになった。>のように、他者の考え方に触れることの意義を感じ取

っている。

クラスター⑤は、「教育実習」に関する記述である。<他の実習生が何を大切にしているか。><個々が過ごした教育実習は違うのだということ。特に担当教員によって伝えられたこと、重きを置かれていたことが異なるので環境により成長の仕方は違うということ。>のように、他者のコメントから、教育実習のことを改めて振り返っている。

最後にクラスター⑥は、①～⑤と大きく異なったツリーになっている。「経験」「人」「他」という分類名が付されている。<私以外の人の視点で実習をした後と前ではかなり世界が違うということを学びました。また、自分が気づけなかつた課題を他の人から学び、自分の足りないところを理解できた。><私と同様、教育実習から学んだ経験について書いてある人が多く、この経験からもっと現場の経験を積んで指導力を向上していきたいという人や教職の勉強に力を入れていきたいと書いてある人もいた。改めて現場の経験の大切さと夢に向かって気持ちをもち続けることの大切さを学んだ。><自分のことも他の人のこともよくわかる。コメントをもらおうとすこしうれしい気分になる。自分のことを見つめるきっかけになる。他の人の考えを知ることができる。>のように、経験したことを他者と共有すること、そして、経験からの学びの意義を実感している。

3.4. 教職eポートフォリオの効果

教職eポートフォリオの効果として、①自分が受けた教育の振り返り、②教職に関する知識や考えの深化、③目指すべき教師像の明確化、④自らの資質・力量の

現状理解, ⑤これからの教職課程の見通し, の5点について, 4段階尺度(とても役だった, 役だった, あまり役立たない, 全く役立たない)で尋ねた。なお, これらの観点および尺度は, 姫野(2012)における「教職ポートフォリオの記録の効果」を利用している。

これらの5項目はいずれも, 教職eポートフォリオを活用する効果として想定していたことである。「①自分が受けた教育の振り返り」では, 教職eポートフォリオを作成することによって, 教育実習だけではなく, それまでの教職課程での学修の効果を検証する。

「③目指すべき教師像の明確化」では, 各学年の始めに「自分の目標」を記入することによって, その時点での「自分の目指す教師像」を設定・再確認することの効果を検証する。「②教職に関する知識や考えの深化」と「④自らの資質・力量の現状理解」では, 観点別自己評価によって, A大学で設定している12観点から振り返り, 教職を目指す(または教員免許を取得する)にあたって何を身につけてきたのか, あるいは自分には何が足りないのかを多面的に振り返ることの効果を検証する。そして, 「⑤これからの教職課程の見通し」では, 総合評価によって, 目指す教師像と自己の現状を比較して, 今後の学修の方向性を自覚することの効果を検証する。

その結果は, 表3のとおりである。「とても役だった」「役だった」を肯定的回答, 「あまり役立たない」「全く役立たない」を否定的回答として, カイ二乗検定を行った。自由度1で1%確率のときの χ^2 値は6.63, 5%確率のときの χ^2 値は3.84であるので, ①~④は1%確率で, ⑤は5%確率で, それぞれ肯定的回答の方が否定的回答よりも有意に多いということになる。

各項目について詳しく見てみると, 「①自分が受けた教育の振り返り」では8割以上の学生が肯定的な回答しており, 「③目指すべき教師像の明確化」および「④自らの資質・力量の現状理解」について約4分の3の学生が肯定的な回答をしている。このように, 教職eポートフォリオを作成することによって, 自らが目指す教師像を明確にしたうえで, 自らの資質・能力を12観点から振り返ったり目指す教師像と照らし合わせたりしており, 教職志望学生の成長を支援していることがわかった。特に, 教職eポートフォリオで毎年度始めに「目標」として, その時点での目指す教師像と, そのような教師像を抱くようになった理由やモデルとなる教師等を記述することとしている。もちろん, 目指す教師像は4年間固定のものではなく, 大学における学修を通して変化していくものではあるが, 中央教育審議会(2012)の答申のキーワードになっている「学び続ける教員像の確立」において, 自分がどのような方向に学んでいるのか, 学び続けて行けばいいのか, その方向性を規定するためにも, 大学で定めたディプロマ・ポリシーや採用側で提示している「求める教員像」だけではなく学生一人ひとりが各自の目指す教師像を意識し続けることに対して, 教職ポートフォリオの作成が有効に働いていることがわかる。

一方, 「②教職に関する知識や考えの深化」と「⑤これからの教職課程の見通し」については, 肯定的な回答をした学生は6割前後にとどまっており, 他の①③④に比べて少なめであった。「②教職に関する知識や考えの深化」については, 教職eポートフォリオを作成し相互閲覧・コメントするだけでは, 「教職に関する知識や考えの深化」にまでは繋がらないと学生が感じ

表3 教職eポートフォリオの効果(上段が人数, 下段カッコ内が%) (N=219)

	とても役だった	役だった	あまり役立たない	全く役立たない	無回答	χ^2 値
①自分が受けた教育の振り返り	38 (17.4)	139 (63.5)	39 (17.8)	1 (0.5)	2 (0.9)	86.5**
②教職に関する知識や考えの深化	15 (6.8)	125 (57.1)	70 (32.0)	7 (3.2)	2 (0.9)	18.3**
③目指すべき教師像の明確化	45 (20.5)	116 (53.0)	51 (23.3)	4 (1.8)	3 (1.4)	52.0**
④自らの資質・力量の現状理解	39 (17.8)	129 (58.9)	46 (21.0)	3 (1.4)	2 (0.9)	65.3**
⑤これからの教職課程の見通し	16 (7.3)	111 (50.7)	84 (38.4)	6 (2.7)	2 (0.9)	6.31*

** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

ていることによると思われる。また、「⑤これからの教職課程の見通し」については、 $p < 0.05$ であり、教職eポートフォリオの作成をこれからの教職課程の見通しを持つことにつながっていないことを示している。中央教育審議会(2006)の答申によって「教職実践演習」が新設・必修化された趣旨・ねらいとして、「学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ること」とされている(田井 2010)。4年次になってはじめて、自らの弱点を意識して補強に努めるのではなく、意識化・明文化している「目指す教師像」に近づくためにはどのような努力が必要か、そのためには大学においてどのような授業科目を履修すればよいのか、大学外でのボランティアや学習チューター等のような活動に参加すればよいのか、これらを学生が自覚できるような指導を臨床経験科目の中に位置付けたり、各研究室におけるゼミ指導体制を構築したりする必要がある。

姫野(2012)では、「①自分が受けた教育の振り返り」「②教職に関する知識や考えの深化」「③目指すべき教師像の明確化」については7割以上の学生が、「④自らの資質・力量の現状理解」でも7割近くの学生が、肯定的な回答をしていた。これらは、本研究とおおむね同様の結果であったが、その一方で、「②教職に関する知識や考えの深化」については本研究では6割程度にとどまっていた。姫野(2012)では、各学年の10~12月に面談の時期が設定されており、大学教員による閲覧と指導が定期的実施されている。しかし、本研究で対象とした学生については、1年次「教育臨床入門」および2年次「教育臨床演習」において、クラス単位での集団リフレクションを通じた指導となっており、各課程・コースの学部教員による個別面談は制度化されていない。このことにより、②の割合の差が出ていると考えられる。

また、「⑤これからの教職課程の見通し」が他項目よりも低かったことは共通している。前述の田井(2010)でも指摘されているように、自己課題の明確化が履修カルテ導入の1つの理由でもあるので、個々の学生が教職課程における見通しを持てるような指導体制の構築が必要であることが共通していると言える。

4. お わ り に

本研究では、自己評価機能と学生間の相互コメント

機能を有する教職eポートフォリオ・システムを開発した。そして、開発した教職eポートフォリオ活用の効果を明らかにするために、教育実習を終えた大学生を対象にアンケート調査を行った。その結果、教育実習生は、教職eポートフォリオを活用して自己評価することを通して、教育実習を客観的に振り返ることができるを感じたり、自己課題を明確にしたりしていた。また、教育実習生間の相互コメントを通して、教育実習を改めて振り返り、相互コメントすることの意義を実感していることがわかった。そして、教職eポートフォリオの効果について尋ねたところ、自分の受けた教育の振り返り、目指すべき教師像の明確化、自らの資質・力量の現状理解等には効果がある一方で、これからの教職課程の見通しを持つことには寄与していないことが明らかになった。

今後の課題としては、次の3点が挙げられる。1つめとしては、教職eポートフォリオ・システムの改善である。実際にシステムを利用している学生からの要望および作成して多くの学生から質問がくる点などが浮き彫りになりつつある。そこで、教職指導学生の振り返りに有効であるこの教職eポートフォリオの作成・入力にあたって、作成者の負担やストレスにならないようなシステムに改善していく必要がある。2つめとしては、教職eポートフォリオを活用した教職指導体制の確立である。本研究および姫野(2012)でも明らかになったように、教職eポートフォリオの利用がこれからの教職課程の見通しを持つことには十分機能していないことがわかった。これは、教職eポートフォリオの課題と言うよりも、教職課程全体に対しての課題である。これらを解決することによって、教職eポートフォリオを活用して「学び続ける教員」を輩出できる教職課程になると言えよう。そして、3つめとしては、指導者コメントの効果の検証である。表1のように、「教職実践演習」終了前の4年次末に近い時期に、学部指導教員が担当する学生へコメントを記入することとなっているため、本研究の調査対象とした3年次生は指導者コメントを実施するに至っていない。そのため、本研究では、指導者コメント機能を有していることの紹介にとどめている。「教職実践演習」を履修して指導者コメントまで実施した学生およびその指導者コメントを記入した学部教員を対象とした調査を行うことにより、指導者コメントの効果を明らかにすることができよう。そうすると、森本(2009)および植野(2010)が挙げているポートフォリオの評価活動3つ

の効果을明らかにすることができる。

付 記

本論文は、主として、日本教育工学会第28回全国大会（谷塚ほか 2012）、日本教育工学会研究会（谷塚ほか2013a；谷塚ほか 2013b）、および教育システム情報学会研究会（谷塚ほか 2014）で発表した研究を進展させて、その成果をまとめたものである。

また、本研究の一部は、JSPS 科学研究費・基盤研究(B) 課題番号25282050「自律的に学び続ける教師の核となる資質・能力の解明と質保証に関する研究」（研究代表者：浦野弘）、および基盤研究(C) 課題番号25350325「教職キャリア志向向上と目指す教員像構築のための教職eポートフォリオの活用」（研究代表者：谷塚光典）の助成を受けたものである。

謝 辞

教職eポートフォリオの開発にご協力いただいた株式会社エールシステムの西入寿和様・竹内学様および有限会社アキツシステムの百瀬隆章様、教職eポートフォリオサーバの導入と運用にご協力いただいた信州大学学術研究院工学系の新村正明准教授、そして本研究の調査に回答していただいたA大学の学生の皆様に感謝申し上げます。

参 考 文 献

- 中央教育審議会 (2006) 今後の教員養成・免許制度の在り方について (答申).
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm (accessed 2015.02.04)
- 中央教育審議会 (2012) 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について (答申).
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm (accessed 2015.02.04)
- 伏木久始 (2010) 教員養成カリキュラムにおける教職実践演習の位置づけ. SYNAPSE, 2010年10月号, pp.26-31
- 姫野完治 (2010) 教職実践演習を支援する教職eポートフォリオ・カルテシステムの開発と評価. 日本教育工学会第26回大会講演論文集, pp.613-614
- 姫野完治 (2012) 教職志望学生の成長感の変容を支援するeポートフォリオおよびカルテ・システムの開発と試行. 教師学研究, 11 : 1-11

- 加藤隆弘, 松能誠仁, 中川一史, 井原良訓, 鷺山靖 (2007) Web 教育実習ノートシステムの開発. 日本教育工学会研究報告集, JSET07-5 : 89-94
- 加藤隆弘, 中川一史, 松能誠仁, 井原良訓, 鷺山靖, 川崎繁次, 川谷内哲二 (2008) Web 教育実習ノートシステムの運用・評価. 日本教育工学会研究報告集, JSET08-3 : 95-102
- ジャストシステム法人ビジネス部 (2007) テキスト分析システム Mining Assistant 分析の手引き. ジャストシステム.
- 鞍馬裕美 (2010) 教職課程における履修カルテとポートフォリオの導入に関する一考察. 帝京大学教職大学院年報, 創刊号 : 19-28
- 森本康彦 (2009) eポートフォリオ. 植野真臣, 長岡慶三編, e テスティング. 培風館, 東京, pp.237-265
- 森本康彦 (2012) eポートフォリオの普及. 小川賀代, 小村道昭編著, 大学力を高めるeポートフォリオーエビデンスに基づく教育の質保障をめざしてー. 東京電機大学出版局, 東京, pp.24-41
- 永田智子 (2002) ティーチング・ポートフォリオ実践研究の動向と課題. 日本教育工学会第18回大会講演論文集, pp.309-310
- 永田智子 (2006) ティーチング・ポートフォリオで授業力を磨く. 人間教育研究協議会編, 教育フォーラム37 : 授業力を磨くー内面性を重視した学習指導ー. 金子書房, 東京, pp.95-104
- 永田智子, 森山潤, 森広浩一郎, 掛川淳一 (2009) 教職大学院用eポートフォリオ・システムの開発と試行. 日本教育工学会論文誌, 33 (Suppl.) : 65-68
- 永田智子, 森山潤, 吉水裕也 (2012) 教職大学院におけるeポートフォリオシステムの開発と活用ー兵庫教育大学教職大学院の事例ー. 小川賀代, 小村道昭編著, 大学力を高めるeポートフォリオーエビデンスに基づく教育の質保障をめざしてー. 東京電機大学出版局, 東京, pp.67-78
- 小川賀代, 小村道昭, 梶田将司, 小舘香椎子 (2007) 実践力重視の理系人材育成を目指したロールモデル型eポートフォリオ活用. 日本教育工学会論文誌, 31(1) : 51-59
- 小柳和喜雄 (2008) 教職大学院における学習環境設計に関する研究. 日本教育工学会研究報告集, JSET08-3 : 63-68
- 田井祐子 (2010) 教職実践演習の実施に当たって. SYNAPSE, 2010年10月号, pp.14-19

植野真臣 (2010) eポートフォリオ. 植野真臣, 荘島宏二郎著, 学習評価の新潮流 (シリーズ〈行動計量の科学〉4). 朝倉書店, 東京, pp.147-165

植野真臣, 宇都雅輝 (2011) 他者からの学びを誘発する eポートフォリオ. 日本教育工学会論文誌, 35(3) : 169-182

柳綾香, 小川賀代 (2011) eポートフォリオの蓄積文書を活用したキャリア支援システムの開発. 日本教育工学会論文誌, 35(3) : 237-245

谷塚光典, 東原義訓, 小山茂喜 (2012) 教員養成と教員研修における教職ポートフォリオの活用—学び続ける教師の養成のために—. 日本教育工学会第28回大会講演論文集, pp.73-76

谷塚光典 (2013) 信州大学における eポートフォリオの運用と工夫—自己評価と相互評価による「目指す教師像」の構築を目指して—. SYNAPSE, 2013年7月号, pp.12-15

谷塚光典, 東原義訓, 渡邊あや, 喜多敏博, 鈴木克明 (2013a) 教職 eポートフォリオにおける相互評価機能の実装. 日本教育工学会研究報告集, JSET13-2 : 23-28

谷塚光典, 東原義訓, 鈴木克明, 喜多敏博, 渡邊あや (2013b) 教職 eポートフォリオを用いた教育実習生による相互評価の分析の試み. 日本教育工学会研究報告集, JSET13-5 : 89-92

谷塚光典, 東原義訓, 鈴木克明, 喜多敏博, 渡邊あや

(2014) 教職実践演習に対応した教職 eポートフォリオが有する機能の比較検討. 教育システム情報学会研究報告, VOL.28, No.5, pp.75-80

Summary

We developed a professional ePortfolio system of self-assessment and peer review for student teachers. In order to evaluate its effect, we used results of the questionnaire filled out by students who completed their student teaching. The results showed the following: (1) Using an ePortfolio for self-assessment allowed student teachers to recognize that they were able to examine their student teaching objectively and to identify their own challenges. (2) Peer review among student teachers helped them to look back on their student teaching and realize the significance of evaluating each other. (3) While ePortfolio effectively helped them to think back to the education they have received, clarify their idea of what a desirable teacher is, and understand their current competencies, it contributed little to their understanding of the teaching training program.

KEYWORDS: EPORTFOLIO, STUDENT TEACHING, TEACHER EDUCATION, PRESERVICE TEACHER EDUCATION, REFLECTION

(Received February 5, 2015)

【提出:2月3日(月)21時までに実践センター事務室前提出Boxへ】
 2014年1月16日(水)

教育実習事後指導⑥出席カード

学籍番号	氏名
実習校 (○をつける)	長野小 長野中 協力校 松本小 松本小十幼 松本中

1. 「教育実習ポートフォリオ (履修カルテ)」で教育実習を自己評価して、何を学びましたか?

2. 教育実習ポートフォリオ (履修カルテ) の効果について、次の4段階尺度で、○をつけて下さい。

	4	3	2	1
とても良かった	└──────────┬──────────┬──────────┬──────────┘			
①自分が受けた教育の振り返り	4	3	2	1
②教職に関する知識や考えの深化	4	3	2	1
③目指すべき教師像の明確化	4	3	2	1
④自らの資質・力量の現状理解	4	3	2	1
⑤これからの教師課程の見直し	4	3	2	1

3. 「教育実習ポートフォリオ (履修カルテ)」で相互評価 (記入・閲覧) して、何を学びましたか?

4. 今回は作成した「教育実習ポートフォリオ (履修カルテ)」を学修分野内で相互閲覧・評価しました。もし他に思っていた点として、誰からどのようなコメントやアドバイスを受けたいたいですか?

(例) 実習校の先生、(副) 校園長先生や教師先生、学部教員、学部の先輩後輩、家族・親戚、等)

5. 教育実習ポートフォリオ (履修カルテ) システムの使いやすさについて、次の4段階尺度で、○をつけて下さい。

	4	3	2	1
とても良い	└──────────┬──────────┬──────────┬──────────┘			
①操作性	4	3	2	1
②ログイン	4	3	2	1
③ページへのアクセス	4	3	2	1
④質問項目の量	4	3	2	1
⑤質問項目の内容・書きやすさ	4	3	2	1

【裏面に続く】

6. 「教育実習ポートフォリオ (履修カルテ)」を改善するとしたら、どのような点を改善すると使いやすいかと思えますか。また、どのような機能が追加されるといいと思えますか。

7. 自己評価で用いた12の観点について、答え下さい。

- A. その観点は、大学 (学部) の講義・演習で学習しましたか。(5段階で)
 5: どちらともいえない ~ 1: 全く学習していない
- B. その観点は、教育実習 I を通じて経験し学習しましたか。(5段階で)
 5: 十分に経験し学習した ~ 3: どちらともいえない ~ 1: 全く学習していない
- C. その観点の中でも、教育実習 I で特に経験し学習した項目3つに○をつけてください。

	A. 大学の講義・演習で 観点は..... 観点は..... 観点は.....	B. 教育実習 I を通じて 観点は..... 観点は..... 観点は.....	C. 特に 観点は..... 観点は..... 観点は.....
1A 幅広い知識や教養	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
1B 使命感・倫理観	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
2A 背景学問の知識	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
2B 教科内容の知識と技能	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
2C 教科指導の知識	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
2D 教科の指導技術	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
2E 授業実践の知識・技能	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
2F 子ども理解の知識	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
2G 学級経営の知識・技能	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
3A コミュニケーション能力	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
3B コーディネーションスキル	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1
4A 省察と改善の態度	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1	5 - 4 - 3 - 2 - 1

D. 自分の教育実習の成果を表現しようとした時、自己評価の12観点が十分でしたか。もし、他に観点を追加しようと思うと、どのような項目が考えられますか。

8. 今回で「教育実習事前・事後指導」は最後です。「教育実習事前・事後指導」全体の感想・意見・要望を自由に書いてください。今後の授業の改善に生かしたいと思います。

【提出:2月3日(月)21時までに実践センター事務室前提出Boxへ】